

# 学位論文審査の要旨

学位申請者	藤崎 香帆里 ライフサイエンス専攻 2017年度生		論文題目	学校給食における食品安全文化に関する研究
審査委員	主 査:	赤松 利恵 教授	インターネット公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副 査:	須藤 紀子 准教授		「否」の場合の理由
	副 査:	村田 容常 教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	市 育代 講師		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	佐藤 瑤子 助教		<input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (学術) (Ph. D. in Nutrition Education)			<input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
				<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について				

## 学位論文審査・内容の要旨

給食施設において安全な給食を提供するためには調理従事者らによる衛生管理が重要となるが、その実践としての衛生管理行動は、組織における食品安全文化に影響を受けるとされる。特に、学校給食は、一度の食中毒事故で数百から数千人という健康被害を及ぼすリスクがあることから、本研究は、学校給食における食品安全文化に焦点をあて、評価尺度の開発およびその信頼性、妥当性について検討することを目的に以下の3つの研究を行った。

### <研究1> 学校給食における食品安全文化に関連する要因の質的検討

質的研究法により、食品安全文化に関連する要因が、個人内要因、組織的要因、環境、マネジメント、マネジメントシステムの5つのメインテーマに分類され、食品安全文化の要因が多層的レベルに存在することを示した。

### <研究2> 学校給食における食品安全文化評価尺度の作成と評価

#### 研究2-1 学校給食における食品安全文化評価尺度の作成

食品安全文化の評価項目を含む質問紙調査を実施し、解析対象者1408名の回答から因子分析と確認的因子分析により、5下位尺度20項目の食品安全文化評価尺度(FSC尺度)を作成し、その信頼性および妥当性を確認した。

#### 研究2-2 学校給食における食品安全文化尺度の評価 -個人における検討-

FSC尺度の全体得点および下位尺度得点を用いて、個人の属性や勤務施設の特徴との関連を検討した。その結果、性別や年齢等の属性や、勤務施設の提供食数、運営方法等によって知覚されるFSCが異なっていた。

#### 研究2-3 学校給食における食品安全文化の評価 -組織による比較-

FSC尺度によって組織(学校)ごとのFSCの違いを検出できるかを検証するため、組織ごとの下位尺度得点を用いてクラスタ分析を行った。その結果、5つのクラスタが抽出されたと同時に、FSC尺度の得点が高いクラスタでは職業性ストレスが低く、規範や衛生管理行動の得点が高いことを示した。

### <研究3> 学校給食における食品安全文化評価のトライアングレーションの試行

より妥当な食品安全文化の評価方法を検討するため、FSC尺度を含む質問紙調査と観察調査等による混合的アプローチを用いた食品安全文化の評価を行った。その結果、単一の方法による評価だけでなく、複数の方法によるトライアングレーションが重要であることを示した。

学位論文審査には、食品栄養科学領域の先生方に審査にあたっていただいた。第1回審査委員会(2019年12月19日)で、論文内容は審査を受けるに十分であることが評価され、2020年1月16日、口頭発表が行われた。その後、審査会で指摘を受けた事項について、修正された論文が提出された。審査委員の質問・指摘について、的確に対応し修正されていたことを確認し、審査委員会は公開審査会を行うことを決めた。公開審査会は2020年1月23日に開催された。発表内容においても前回の指摘事項が修正され、質疑応答も、的確に回答した。その後開催した審査会(2020年1月23日)にて、審査委員会は本論文に対して、以下の点を評価した。

1. 学校給食における食品安全文化の評価尺度を提示し、その信頼性および妥当性を示したこと
2. これまで、知識型教育が中心であった学校給食従事者の衛生教育に対し、食品安全文化という新たなアプローチを提案したこと

本研究に関する研究成果は、すでに筆頭著者として、国際誌(査読あり)のJournal of Foodservice Business Research(2019, 22 (1), 66-80), British Food Journal (2020, 印刷中)で発表されている。

以上を総合して、本審査委員会は、本論文を、本学大学院人間文化創成科学研究科における博士(学術), Ph.D. in Nutrition Educationの学位を受けるにふさわしいと判断した。